

自立活動の本質に迫る個別の指導計画の在り方 I

今後の特別支援教育における個別の指導計画の意義

企画・司会	池田彩乃・内海友加利・安藤隆男	(山形大学・兵庫教育大学)
話題提供 1	山根紘子・林留美子	(茨城県立石岡特別支援学校・前：茨城県立つくば特別支援学校)
話題提供 2	池田彩乃	(山形大学・前：筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
話題提供 3	八柳千穂・阿久津百子 原千咲季	(茨城県立水戸特別支援学校) (茨城県立石岡特別支援学校)
指定討論	分藤賢之	(文部科学省)

KEY WORDS: 自立活動 個別の指導計画の作成 個別の指導計画の意義

【企画趣旨】

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対して、通級による指導を行う場合には、自立活動の内容を参考とした指導を行うことが小学校等学習指導要領において明示された。今後は通常の学級においても、自立活動の指導が重要な役割を果たすことが期待される。自立活動の指導の充実にあたっては、個別の指導計画の作成・活用が必要不可欠である。個々の教育的ニーズを自立活動の指導として具現するために、関係教師等の役割と協働によって個別の指導計画の作成、活用を図ることとされる所以である。

近年の急速な科学技術の進歩や社会の変化に対応する人材育成のために、自立活動に係る教師の専門性の向上、特に授業力の向上は喫緊の課題である。一方で、教師の大量退職に伴い、教師集団の若年化や特別支援教育の対象の拡大に伴う教育的ニーズの多様化等を背景に、その実現は容易ではない。このような、特別支援教育を取り巻く現状を踏まえ、改めて自立活動や個別の指導計画の意義や重要性を確認する必要があるだろう。

学習指導要領等において個別の指導計画の作成は、明示されているものの、作成者や作成手順、内容等は各学校の主体性及び説明責任が求められている（安藤，2001）。特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（文部科学省，2018）において示された「流れ図」においても、あくまでも手順の一例として示されたものであり、各学校においては、児童らの実態等に応じ、創意工夫しながら個別の指導計画の作成及び活用に関わる事項について検討することが必要となる。特別支援学校では、対象となる児童らの学級担任を中心とし、複数教師による協議を通して個別の指導計画が作成されてきた。その理由として、特別支援学校における Team Teaching（以下、TT）による指導形態があげられる。在籍する児童らの障害の重度・重複化等を背景に、複数教師が共に授業を行う TT による指導体制が日常化している。対象児童らに共に関わる教師集団が共通理解をはかり、指導にあたる必要があるため、複数教師による協議を通して個別の指導計画が作成されてきたと考えられる。

小学校等における個別の指導計画の作成やそれらに基づく自立活動の指導については、緒に就いたばかりであり、これまで実践を積み重ねてきた特別支援学校の取り組みが多くの知見を与えることになる。

そこで、「自立活動の本質に迫る個別の指導計画の在り方 I -今後の特別支援教育における個別の指導計画の意義-」においては、特に特別支援学校の当該課題への取り組みに着目し、特別支援教育の現状を踏まえた上で、改めて自立活動や個別の指導計画の意義等を確認し、その在り方を提案する。

【話題提供の要旨】

話題提供 1：新学習指導要領を踏まえた校内体制整備

特別支援学校においては、これまで各学校の創意工夫の基で、個別の指導計画が作成され、活用されてきた。しかし、学習指導要領の改訂や特別支援教育を取り巻く近年の社会情勢の変化等を踏まえ、既存の手続きを見直し、新たな手続きを導入する等、校内体制の再構築が求められている。新たな手続きを導入する際には、校内において少なからず負担感や抵抗感を抱く教師がいることが想定される。そのような状況において、教師間でどのように共通理解をはかるべきか、また新たな手続きを校内に定着させるためにはどのような工夫が必要かについて、事例に基づき提案する。

話題提供 2：個別の指導計画作成システムと授業との接続

個別の指導計画は、とするとその作成に関心が向き、授業との接続がうまくはかれない、活用できていないといった課題が指摘されている。個別の指導計画は、作成そのものが目的ではなく、授業に活かされて意義をもつものである。準ずる教育課程で学ぶ肢体不自由特別支援学校小学部に在籍する児童を対象とした個別の指導計画作成とそれに基づいて実施した授業実践の接続について提案する。

話題提供 3：若手教師に対する個別の指導計画作成に関わる専門性の継承

小学校等と同様に、特別支援学校では、教師の年齢構成において若年化が顕在化し、若手教師の専門性の向上が課題となっている。本事例では、採用二年目の教師を対象として、個別の指導計画作成を通じた専門性育成の校内研修を実施した。校内研修を通して、個別の指導計画作成に関わる際に必要な実態把握の視点が身につく等の成果が見られた一方で、課題も明らかとなった。校内において自立活動や個別の指導計画に関わる専門性をいかに育成、継承していくべきなのか、事例に基づき提案する。

【指定討論の要旨】

特別支援教育に関わる最新の動向を踏まえ、今改めて自立活動の指導の意義や重要性、それを担保するための個別の指導計画の在り方等について議論を深めていく。

引用文献

安藤隆男（2001）個別の指導計画作成の目的論．安藤隆男

（編）自立活動における個別の指導計画の理念と実践．川島書店，73-84．

文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説自立活動編．

（付記）本シンポジウムは、JSPS 科研費 20K22208 の助成を受けて取り組む研究に関連したものです。

（IKEDA Ayano, UTSUMI Yukari, ANDO Takao, YAMANE Hiroko, HAYASHI Rumiko, HACHIYANAGI Chiho, AKUTSU Momoko, HARA Chisaki, BUNDO Noriyuki）